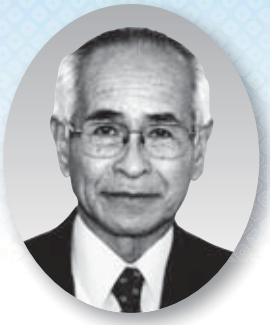
「国東市の礎を確かなものに」



国東市議会　議長　諸冨　忠

新年あけましておめでとうございます。

市民の皆様には、希望に満ちた平成22年の新春を健やかにお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

また、平素より議会活動に対しまして、温かいご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

私も、議長の要職に就任して以来、「親しまれる議会づくり、開かれた議会づくり」に全力を傾注し、市政発展のために誠心誠意取り組んでいるところでございます。

昨年を顧みますと、一昨年のアメリカ発の金融危機により世界経済が激しく落ち込み、国内においては、円高により輸出関連企業を中心に大きな打撃を受け、各地で派遣社員の大量解雇をはじめとする雇用状況が悪化し、それによる先行き不透明感から個人消費が低迷しデフレ感が強まるなど、私たちの生活にも大きな影響が現れた一年でした。

また、8月の総選挙において、民主党を中心とした新政権が誕生し、国の財政運営も行政刷新会議による「事業仕分け」の実施など、予算編成は大幅な見直しが行われました。政権交代に伴い国と地方との新たな関係が模索されている現在、自治体は従来にもまして自ら物事を考え判断していくことが重要であり、少ない財源を有効かつ効果的に使うことが求められていますし、今まさに、行政の力量が問われているといっても過言ではありません。そして、地方分権の進展に伴い自治体の「自己決定」「自己責任」が求められているなかで、市民生活に直結した市議会の役割と責任はますます増大してきています。

執行部と議会がそれぞれの役割分担を明確にし、議会は自主性を高め、自治体の意思決定機関として積極的に行動すべきであり、政策提言機能や監視機関としての機能の充実を図らなければならないと考えています。そして、民意を的確に反映した市政の実現に努めなければなりません。

こうした状況のなか市議会では、既設の「行財政改革調査特別委員会」、「環境問題対策特別委員会」に加え、昨年新たに「議員定数等調査特別委員会」を設置して、議員定数とともに議会改革に必要な事案等を総合的に検討し、定数については4名減員して22名に決定したところであります。

合併して5年目を迎える本年は、国東市発足後はじめて市内全域を選挙区とする市議会議員選挙が実施され新たな市議会が発足します。しかしながら、市民病院改築の問題、ゴミ処理場建設の問題、小学校統合の問題など、市民生活に直接関係する様々な課題が山積しています。その解決に向けてこれまで以上に努力をしなければなりません。

今後とも市民の皆様の負託に応えるべく、議員一丸となって積極的な議員活動を展開し、それぞれの能力を発揮しつつ『国東市の礎を確かなものに』するため、また、安心安全で快適な市民生活の確保のために目指す方向を一つにし、皆様のご期待に応えていく所存であります。

結びにあたり、本年が皆様方にとりまして実りある飛躍の年となりますよう心からご祈念申し上げますとともに、一層のご支援、ご協力をお願い申し上げまして、新年のごあいさつとさせていただきます。

議席順

議員	元永　安行
議員	安見　蔚
議員	宮永　英次
議員	木田　憲治
議員	渡邉　俊樹
議員	髙橋　正之
議員	吉松　京一
議員	吉水　國人
議員	堀田　一則
議員	松本　剛弘
議員	大谷　和義
議員	丸小野宣康
議員	猪俣　俊雄
議員	清國　仁士